

マンガに描かれる男女の顔形の特徴と身体像 (ボディ・イメージ) Characteristic of face shapes and body image depicted in Japanese comics (*manga*)

杉山英子¹ Eiko Sugiyama, 中沢ひとみ¹ Hitomi Nakazawa, 中澤公美¹ Hiromi Nakazawa
渋谷明希子¹ Akiko Shibusawa, 高橋実沙登¹ Misato Takahashi, 中村真理子¹ Mariko Nakamura
永下祐衣¹ Yui Nagashita, 前角みちる¹ Michiru Maezumi, 松本秀樹¹ Hideki Matsumoto
石尾さゆり¹ Sayuri Ishio, 小澤里沙¹ Risa Ozawa, 横山 伸² Shin Yokoyama

Abstract: The present study investigated the stereotypes of the ideal male and female face shapes depicted in Japanese comics (*manga*) and their influence on body image. General trends of face shapes in male and female figures (n=1381) were analyzed in *manga* published during 2006–2008. In *manga* for female readers, both males and females have a thinner cheek-jaw silhouette, while in *manga* for male readers, they have a natural cheek-jaw silhouette. Moreover, compared with females' face shapes of males depicted in all the *manga* categories have more variation of face shape. Interestingly, males in *manga* stories for adult female readers are depicted with the highest frequency of thin cheek-jaw silhouette. The meaning of the thinner cheek-jaw silhouette in *manga* is discussed.

Running title: マンガに描かれる男女の顔形の特徴

Key words: マンガ、身体像、ボディ・イメージ、顔形、やせ理想像、摂食障害

1. はじめに

摂食障害は、都市化、移民、近代化、異文化衝突など文化変容の著しい社会で急増することが知られ (Banks, 1992; Gordon, 2001; Groesz et al, 2002; Stice et al, 2003)、メディアのもたらす影響がその発症に深く関わっていることが指摘されて久しい (Groesz et al, 2002; Derenne and Beresin, 2006; Grabe et al, 2008)。Beckerらは南太平洋のフィジー共和国における思春期女子の摂食障害発症を報告し、急速なグローバル化に伴い固有の伝統文化が失われつつある中で、テレビを代表とするマス・メディアが摂食障害の発症や経過に対し、大きな負の影響を与えていること (Becker et al, 2002)、さらに、近年若年層に急速に普及しつつあるソーシャルネットワークサービスも同様の負の影響を与えることを報告し (Becker et al, 2011)、そのあり方に警鐘を鳴らしている。メディアによってもたらされる偏った情報が、思春期における極端に歪んだボディ・イメージ、ことに「やせ理想像」が形成され内

在化される (Richins, 1991, Posavac et al, 1998; Derenne and Beresin, 2006) 一因と考えられている。同様なメディアの影響は、欧米と異なる地域でも広く観察されている。メディアが誘発する摂食障害を含めた思春期青年期の健康問題の広がりや憂う動きは小児科医療領域においても高まっている (Strasburger VC, et al, 2010)。良きにつけ悪しきにつけ、メディアが個々の人々の心理的発達に及ぼす影響は大きい。

マンガは現代日本において発展したユニークな文化である (Natsume F, 2000; Gravett P, 2004)。類似した欧米の cartoon や comic strip、日本の児童文化の一部であった古典的な「漫画」と異なり、緻密なストーリー性を有する現代のマンガは、多様な世界観や人生観を、実写では不可能な多様な画像表現で描き出すことができるものである (横山ら, 2005; 家島, 2007)。実際に現代のマンガを様々な観点から研究しようとする動きが活発であり、その中の一つとして、マンガを認知心理学的に研究しようとする動きがおきている (家島, 2007)。

前報において我々は、マンガに描かれる身体像が個人の中の「やせ理想像」の構築に少なからず影響があるのではないかと、あるいは、やせ理想像があふ

所属

1 長野県短期大学 生活科学科 健康栄養専攻

2 長野赤十字病院精神科

れる現代社会の反映ではないかと考え、各ジャンルのマンガに描かれる若年女性の身体像を解析した。その結果、女性読者を対象としたマンガでは男性読者を対象としたマンガよりやせた女性像が女性マンガ家によって描かれていること、女性向けのマンガにおいては描かれる人物の女性性や母性が細い身体像と結びついていることを明らかにし、摂食障害発症に関わりうる“peer pressure” (Field, 1999; Paxton, 1999; Stice et al., 2003) に言及した (横山ら, 2005)。

この研究の過程で、当初、我々は頭部の形をも解析の対象としたが、予想以上に顔の下半分は、頬から顎にかけて鋭利にデフォルメされ、人間の頭部の自然な形態とは乖離しているため、頭部に関しては、別途方法を工夫する必要があることがわかった。近年、欧米では男性の摂食障害患者の存在も珍しいことではなくなり (Woodside, 2001; Boodman, 2007)、わが国においても 1980 年代後半に厚労省研究班による疫学調査で 4% 程度の存在を確認している (末松, 久保木ら, 1988) ことに始まり、少数ながら男性摂食障害患者の存在、漸増への懸念が高まっている。発症の背景要因にもなりうる「やせ願望」が男性においても強まっていることから、前報の調査ではマンガに描かれる女性像のみを対象としたが、本調査では男女両方の登場人物の顔形を対象とすることにした。そして、それらの顔形と物語における役割との相関性などを解析することを目的とした。本報では、まず、マンガのジャンル別に、描かれている若年男女の顔形の特徴を報告する。

方法

日本国内の主要な書店で入手可能な、広範囲に出版されているコミック誌に掲載されている作品を調査対象とした。コミック誌を少女向け、少年向け、成人女性向け、成人男性向けの 4 つの категория に分類し、同様にそれらに掲載されているマンガを分

類した。前報と同様に、幼児的な誇張が著しいマンガ作品 (ギャグマンガ等)、性的な誇張が著しい作品 (ポルノ等)、明らかに非人間的なイメージが誇張されている作品 (動物を擬人化したマンガ等) は対象から除外し、比較的人物像の変形が少ない作品における男女の顔形を調査した。調査したすべてのコミック誌、作品数、計測に用いた男女の顔形の数を表 1 に示す。

前報 (横山ら, 2005) では JIS センターのデータベースから作成した平均的現代日本人若年女性の身

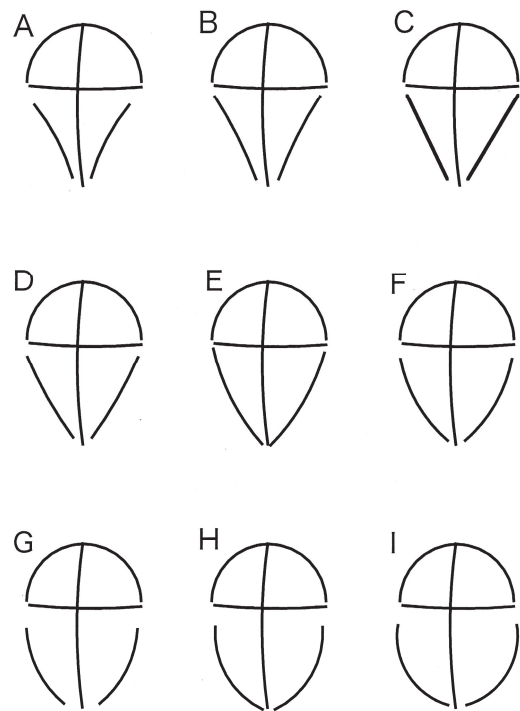


図 1 マンガに描かれる顔形のイメージ図

顔の頭頂部を半径 r の半円で、頬から顎にかけての部分半径 R の円弧 2 個で、顔形の輪郭を構成した。 r/R の値を -0.27 から 0.8 ($-4/15$ から $12/15$) の範囲とした。なお、 $r/R=0$ は頬の輪郭が直線 (半径無限大の円弧) から成る形態で C のパネルの図像にあたる。 r/R が負の値になるのは頬が凹んだ円弧から成る形態である (A, B)。

表 1 作品ジャンル別の、コミック誌、測定可能な男女の身体像 (顔形)、作者及び一冊あたりの平均作品の総数

カテゴリー	コミック誌	男性の身体像	女性の身体像	一冊あたりの作品数
少年誌	14 (96 話)	152	120	6.9
成人男性誌	18 (125 話)	159	187	6.9
少女誌	14 (123 話)	234	236	8.8
成人女性誌	10 (91 話)	126	158	9.1

体像および標準偏差を基にマンガに描かれる体形を調査したが、顔形に関しては比較的変形の少ない体形と異なり、頬の痩け具合や顎の鋭角さがかなり誇張される傾向があるため、図像上の顔形の基本となる形態と変形の手順を、以下のように設定した。すなわち、頭部を頭頂部（頭部の上半分）と頬から顎にかけての下半分とに分け、図1に示すように、頭頂部を半径 r の半円で、頬から顎にかけての部分を半径 R の円弧2個で、顔形の輪郭を構成した。 r/R の値は -0.27 から 0.8 ($4/15$ から $12/15$) の範囲とした。なお、 $r/R=0$ は頬の輪郭が直線（半径無限大の円弧）から成る形態で、 r/R が負の値になるのは頬が凹んだ円弧から成る形態である（図1）。この形態変形の範囲は、写實的にみれば非現実的な顔形をも含む範囲であるが、マンガに登場する顔形を分類するにはほぼ適切な範囲であった。

結果

マンガに描かれる顔形をその頭部と頬部の曲率比を横軸に、出現頻度を縦軸にグラフ化したものを女性像について図2A、男性像について図2Bに示した。

全体的に実際の人間の顔よりも細く尖った顔形が多かった。現実的にあり得ないと思われる顔形（便宜上、図像から r/R 値が -0.27 から 0.13 —図1のAからEに相当する—を「非現実的な顔形」とした）の存在比は表2のように約20%から60%であった。

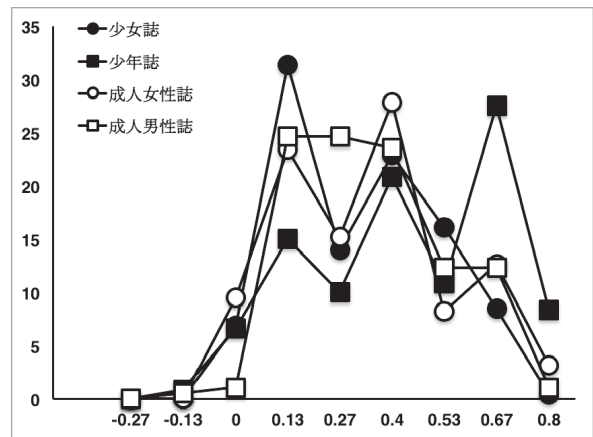
少女マンガに描かれる男性の顔形は全体的に形態が分散しているのに対して、女性の顔形は非現実的に細い方への著しい偏倚があった。少年マンガでは男性像女性像とも全体的に分散しているが、他のジャンルと比較して明らかに女性の顔が丸く（普通に）描かれていた。成人女性マンガにおいては、以外にも女性の顔形が全体に分散するのに対して男性

表2 作品ジャンル別の「非現実的な顔形」^注の出現率

カテゴリー	男性像	女性像
少女誌	44.02	38.14
成人女性誌	61.90	32.91
少年誌	35.53	22.50
成人男性誌	32.08	26.20

注：図像から r/R 値が -0.27 から 0.13 —図1のAからEに相当する—を「非現実的な顔形」とした。

A



B

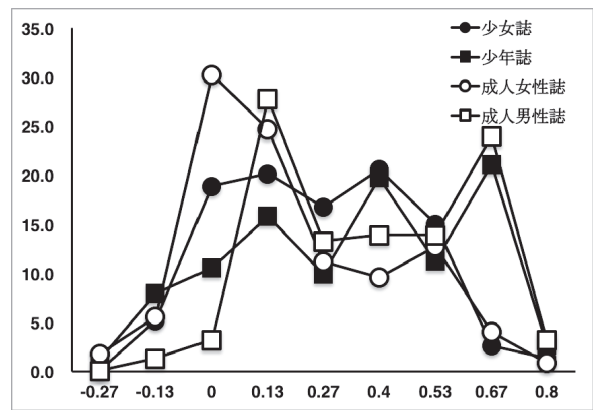


図2 マンガに登場する人物の身体像における図1で示すそれぞれの顔形の出現頻度

A ジャンル別の女性像 B ジャンル別の男性像

の顔形の細さが顕著であり、明らかに非現実的な細い顔の存在比が61.9%で群を抜いて多かった（表2）。成人男性マンガでは男性像女性像とも全体的に分散していたが、男性の顔形がグラフ上で二峰性、すなわち比較的丸い（普通の）顔形と尖った顔形に二分されていた。

考察

今回の調査によって、マンガに描かれる顔形は、女性像、男性像を問わず成人女性向けのマンガにおいて、現実よりも細く頬から顎にかけて尖った形に描かれることが明らかとなった。逆に、男性向け、特に少年向けのマンガにおいては女性の顔であっても比較的現実の自然な形に近く描かれているものが多いことがわかった。すなわち、頬から顎にかけて

丸みを帯びた形—頭部と頬部の曲率比 0.67 で表すことができる顔形 (図 1 の H)—の出現頻度が男女とも高かった (図 2 A, 2 B)。言い換えれば、図 2 に示すように、男性向けのマンガの方が出現する顔形のバリエーションがより豊富でありながら、非現実的な形の出現頻度が低いと言える。このような女性向けマンガと男性向けマンガとで描かれる顔形に差が見られたという結果は、前報 (横山ら, 2005) で明らかにした若年女性像のウエスト、ヒップに現れた傾向 (女性向けのマンガでは細く、男性向けのマンガではグラマーな体型に描かれていた) と符合していると言えよう。この報告では解析途中であるためデータを示さないが、物語における登場人物の顔形と役割との関係に何らかの相関関係があるのかどうか、言い換えれば、細くて尖った顔に作者は何らかの役割概念を持たせて描いているのかどうかという点が興味深いところである。前報 (横山ら, 2005) の結果を踏まえれば、何らかの役割概念を持っているものと推測でき、おそらくは出現頻度の高い形には、それが仮に非現実的であったとしても、現代社会におけるプラスの役割概念、良いこと、望ましいことが託されているのではないだろうか。

また、頬から顎にかけて尖った形は、コルマンの述べる「拡張—縮小の法則」によれば「縮小型」の顔の概念に近い。「縮小」は「力が内側へ向かい、内化し、生体内に集中し、本質的な機能を果たさせて生命維持を保障する過程」であり、「防衛」、「閉鎖と選択的適応」という概念で表現することができると述べている (コルマン, 2005)。神経性食欲不振症の治療困難例を、変化 (治療) への不安に基づく「強迫的防衛」であると捉えて介入した報告 (瀧井ら, 1999) があるように、「防衛」という概念は「細さ」と密接に結びつくのかもしれない。

マンガというメディアの優れた特徴はその表現様式とストーリー性にあることが指摘されて久しい (香山, 1991; 夏目, 1997)。かたちを自由自在にデフォルメできるため、対象が人物であっても如何様の画像をも産出することが可能である。それによって、実話に基づく作品から現実にはあり得ないファンタジーの世界まで描き出す多様性がもたらされることになり、マンガの描き出す世界は「豊か」であると言えるし、想像力を涵養する力を有するものでもある。しかしながら、この力は「両刃の剣」であるとも言える。例えば偏った顔形、偏ったストーリーばかりに暴露されて、様々な複数のマンガの豊かな世界観に広く触れずにいることは、マンガの読者が仮に大人であってもその思考や行動様式に与えら

れる影響は少なくないかもしれない。

マンガを読んで影響を受けて摂食障害になったと語る人はいないだろう。それは、摂食障害と社会文化的な要因を論じる際にしばしば例に出される「ツイギー (小枝ちゃん)」の体形に影響を受けて摂食障害になったと語る人がいないのと同様である。マンガに限らず社会文化的な要因というものは摂食障害の本質的な発症要因ではないが背景的な要因として重要であると言える (ヘス=バイパー, 1997)。摂食障害という病を抱える現代を生きる人々が皆暴露されている文化的媒体として存在しているマンガの中にある「メッセージ」とは何であろうか。マンガに描かれる細くて尖った顔が意味するものは何かを読み解くことは摂食障害治療や予防教育の方法の選択肢を増やしていくことにつながりうるのではないだろうか。

さまざまな病態の検討が進み、摂食障害は、その病理に個人と個人の問題を包括すること、言ってみれば、摂食障害は「関係性の病」であることが認識されつつある。摂食障害に限らず、神経症圏の精神疾患全体に共通することであるが、「関係」に本質的な問題がある病の事例においては、患者と治療者・支援者との良好な関係を築くことが各種の特別な治療技法に勝ることが理解されるようになってきている (ボストン変化プロセス研究会, 2011)。治療者との「関係」構築を拒むかのような逸脱行動を見せる難治例も、逆説的だが相手を見た上で拒むことにより表現される「関係」を作っているのであり、「関係」の重要性を示唆していると言える。その意味で、多様な患者と治療者・支援者の関係に合うよう、多様な治療や予防教育の選択肢があることが望ましい。

摂食障害患者—治療者・支援者関係の豊かさとは、豊かなコミュニケーションに規定されるものである。豊かなコミュニケーションとは、質的なものと数的なものに分けられるが、質的な豊かさは理と情の両面への働きかけが互いになされていること、数的な豊かさはコミュニケーション手段の種類の豊富さに追うところが大きいと考える。

マンガというメディアの持つ優れた資質 (言葉と手書きの映像 (視覚情報) の複合性、リアルな映像よりもさらに豊かな空想の世界を捉えられること、ストーリー性、場面性が豊かであること、多様性があることなど) は、いずれも豊かなコミュニケーションの成立に貢献しうるものであると考えられる。であるからこそ、このメディアの表現様式に暗黙の約束として織り込まれている非言語的メッセージの

言語化を学問として追求する事は、現代の文化を読み解く上で重要であろう。

本研究の調査手法は、マンガに描かれる登場人物の顔形を直観で9種類の顔形のどれに該当するかを判定するというものであり調査を担当する個人の主観に依存する。それゆえ、客観性という点で本質的な限界を持つ。したがって、今回明らかになった傾向が確かなものであるかどうか、データの再現性を高めるための標本数を増やすこと、さらに、物語における登場人物の役割解析を併せて行い、暗黙の「メッセージ」解析を試みる事が今後の課題である。

文献

- Banks CG. 'Culture' in culture-bound syndromes: The case of anorexia nervosa. *Soc Sci Med* 34: 867-884, 1992.
- Becker AE, Burwell RA, Burwell DB, Herzog DB, Hamburg P. Eating behaviours and attitudes following prolonged exposure to television among ethnic Fijian adolescent girls. *Br J Psych* 180: 509-514, 2002.
- Becker AE, Fay KE, Agnew-Blais J, Khan AN, Striegel-Moore RH, Gilman SE. Social network media exposure and adolescent eating pathology in Fiji. *Br J Psych* 198: 43-50, 2011.
- Boodman SG. Eating Disorders: Not Just for Women. *The Washington Post*, March 13, 2007 <http://www.washingtonpost.com/wp-dyn/content/article/2007/03/09/AR2007030901870.html>
- Derenne JL and Beresin EV. Body Image, Media, and Eating disorders. *Acad Psychiatr* 30: 257-261, 2006
- Field AE, Camargo CA, Taylor CB, Berkey CS, Colditz GA. Relation of peer and media influences to the development of purging behaviors among preadolescent and adolescent girls. *Arch Pediatr Adolesc Med* 1999; 153: 1184-1189.
- Gordon RA. Eating disorders East and West: A culture-bound syndrome unbound. In: Nasser M, Katzman MA, Gordon RA, editors. *Eating disorders and cultures in transition*. New York: Brunner-Routledge, 2001. p. 1-16.
- Grabe S, Ward LM, Hyde JS. The role of the media in body image concerns among women: a meta-analysis of experimental and correctional studies. *Psychological Bull* 134: 460-476, 2008
- Gravett P. *Manga: Sixty years of Japanese comics*. London: Laurence King Publishing; 2004.
- Groesz LM, Levine MP, Murnen SK. The effect of experimental presentation of thin media images on body satisfaction: a meta-analytic review. *Int J Eat Dis* 31: 1-16, 2002
- ヘス=バイバー著, 宇田川拓雄訳 誰が摂食障害をつくるのか—女性の身体イメージとからだビジネス 東京:新曜社 2005 [1997]
- 家島明彦, 心理学におけるマンガに関する研究の概観と展望. 京都大学大学院教育学研究科紀要 53: 166-180. 2007
- 香山リカ リカちゃんコンプレックス 東京:太田出版; 1991
- ルイ・コルマン著, 須賀哲夫, 福田忠郎訳相貌心理学序説 北大路書房; 2005
- 夏目房之助マンガはなぜ面白いのか 東京:日本放送出版協会; 1997.
- Natsume F. Japan's Manga Culture. *The Japan Foundation Newsletter*; 27 (3): 1-6, 2000
- Paxton SJ, Schutz HK, Wertheim EH, Muir SL. Friendship clique and peer influences on body image concerns, dietary restraint, extreme weight-loss behaviors, and binge eating in adolescent girls. *J Abnormal Psych* 1999; 108: 255-266, 1999
- Posavac HD, Posavac SS, Posavac EJ. Exposure to media images of female attractiveness and concern with body weight among young women. *Sex Roles* 1998; 38: 187-201.
- Richins ML. Social comparison and the idealized images of advertising. *J Consumer Res* 18: 71-83, 1991
- ボストン変化プロセス研究会, 丸田俊彦訳 解釈を越えて—サイコセラピーにおける治療的变化プロセス, 2011
- Stice E, Maxfield J, Wells T. Adverse effects of social pressure to be thin on young women: An experimental investigation of the effects of "fat talk". *Int J Eat Disord*, 34: 108-117, 2003
- Strasburger VC, Jordan AB, Donnerstein E. Health effects of media on children and adolescents. *Pediatrics*, 125: 756-767, 2010
- 末松弘行, 久保木富房. 摂食障害の疫学. *精神科治療学* 3: 471-475, 1988.
- 瀧井正人, 小牧元, 久保千春. 10年間にわたり10回の入院を繰り返した神経性食欲不振症の遷延例—強迫的防衛への治療介入(第1報:外来治療)—*心身医学*, 39: 435-442, 1999
- Woodside B, Garfinkel PE, Lin E, Goering P, Kaplan AS, Goldbloom DS, Kennedy SH. Comparisons of Men With Full or Partial Eating Disorders, Men Without Eating Disorders, and Women With Eating Disorders in the Community. *Am J Psychiatry* 158: 570-574, 2001
- Wiseman CV, Gray JJ, Mosimann JE, Ahrens AH. Cultural expectations of thinness in women: An update. *Int J Eat Disord* 11: 85-89, 1992
- 横山伸, 井上梓, 北澤沙也加, 村上奈月, 長澤祐美, 長瀬緑, 西綾子, 高橋あつ子, 内山ちえみ, 上野順子, 山本詠子, 杉山英子. マンガに描かれる女性の体形と日本人若年女性のボディイメージ. *長野県短期大学紀要* 60: 37-44, 2005